

令和３年度 長尾谷高等学校 学校評価について

< 目 次 >

- I 令和３年度 長尾谷高等学校 学校評価
- II 令和３年度 長尾谷高等学校評価アンケート 評価結果報告書
- III 学校関係者評価 概要
- IV 「令和４年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

I 令和3年度 長尾谷高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- (1) 一人ひとりを大切にし、自立した学びを続けられる人材を育成する
- (2) 一人ひとりの特性に配慮し、『学びの個別化』に対応した教育
- (3) A I 時代に対応

2 中期的目標 (Plan)

1 学校運営

- (1) 教育課程
- (2) 年間を通じた教育計画の作成
- (3) 教職員間の情報共有と連携強化
- (4) 開かれた学校づくり・情報公開
- (5) 危機管理

2 教育内容・教育の課題

- (1) 情報教育
- (2) 教育体制及び重点目標
- (3) 特別活動・部活動の充実

3 生徒指導・支援

- (1) 生徒支援 (学習指導・進路指導)
- (2) 生徒指導・校内巡回の充実

4 教職員研修・資質向上

- (1) 教職員研修
- (2) O J T の効果的活用

【自己評価アンケート結果と分析・学校評価委員会からの意見】(Do、Check)

自己評価アンケートの結果と分析[令和3年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
○教職員 ・実施日 令和3年12月1日(水)～令和4年1月31日(月) ・対象者 常勤教職員 60名(回答率100%) 【分析】 回答率は100%で全教職員の意思が反映されていると考えられる。全体の肯定的評価(A B)は昨年度は95%であったが、今年度は97%と肯定率が向上している。また、危機管理に関する自己評価において、「A よくあてはまる」との回答が昨年度より大きく増加しており、避難訓練などを通して教職員の危機管理意識が向上していることが伺える。また、部活動に関する自己評価においても、「A よくあてはまる」の回答が増加しており、教科指導のみならず生徒の社会性や連帯感の育成にも教職員が熱意をもって取り組んでいることが伺える。これらは今後も維持していきたい。一方、IT活用能力や国際的視野の醸成には昨年に引き続き、課題が残っており、教職員研修などを通じて、今後改善していく必要がある。	＜学校関係者評価委員会＞ 1 実施日 令和4年10月25日(火) 2 学校関係者評価委員会委員から、「自己評価アンケート」の結果につき多様な観点から分析・評価をいただいた。「総括」評価は次の通りであった。 ・全体を通して、昨年に引き続きコロナ禍での教育実践、学校運営となり、本来の教育活動が保障されない中、生徒の学習活動に全教職員が協力して取り組み、生徒一人ひとりに対する支援がよくなされている。 ・コロナ禍のなか、さまざまな工夫をされていることがわかりました。引き続き、こども達のために何ができるのかを考えていただき、教育を進めていただければと思います。 ・教職員の教育活動への自身が伺える。分校・分室に分かれる中、統一感を持って取り組んでおり全体的に充実感がある。今後、更なる活躍に期待いたします。 ・コロナ禍で教育現場も大きな影響を受けましたが、学習が滞ることなく、日々取り組まれたことが伝わる内容のアンケート結果であったと思いました。 ※ 各項目の詳細については、別添資料「IV『令和4年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会』の意見」を参照。

3 令和3年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校運営	(1) 教育課程 教育課程内容の検証	ア 学習指導要領の対応状況	学習指導要領と教育課程・授業内容との一致	教育課程は学習指導要領の趣旨内容に沿っている
	(2) 教育計画 教育計画の充実	教育計画の作成と内容の精選	各教科とも教育計画内容の精選を実施	年間を通じてよりよい教育計画を立案し全教科で精選し充実させている
	(3) 情報共有と連携 ア 教員間の連携	教員間教科間の相互理解に基づく教育活動	相互理解と信頼関係の構築	統一された教育理念のもとで教育活動が展開されている。
	イ 教員と事務職員間の連携	両者の間での情報共有の機会を増加させる。	相互理解と信頼関係の構築	同一基準で対応しなければならないことが教職員間で理解されている。
	(4) 情報公開 ア 学校ホームページの充実	学校ホームページの情報内容の精選と充実	公開情報を日常的にチェックし更新する	HP 担当者が各分校・分室の意見集約に時間を要している。
	イ 学校説明会の充実	説明内容の充実と開催の回数を最低10%増加する。	説明内容を精選し必要な情報を常に検証する	学校見学・説明会の回数を増加するために、協力体制を築いている
	(5) 危機管理 危機管理マニュアル	役割の明確化と諸機関との連携	訓練内容の精選と充実	危機管理の大切さが教職員間で理解されており、災害時にも速やかに対応できるよう訓練の継続が必要。
2 教育内容・教育の課題	(1) 情報教育 情報能力育成、情報モラル指導	IT 活用能力育成と情報発信モラルの教育に取り組む	授業を含め様々な機会をとらえて指導する	新型コロナウイルス対応の学習形態も含め、情報リテラシー及びモラルについて資質を高めるとともに、適切な IT 活用能力を磨く
	(2) 教育体制及び重点目標 ア 人間性を培う教育の充実	知性と感性の調和のとれた人間性を育む教育の実践	面接指導の充実が図られている	生徒と直接向き合う指導を重視し、対面指導（面接指導）を通じて、生徒の成長に繋がっている
	イ 国際教育の充実	国際的視野に立った判断力・言動力の醸成	他者の人権尊重と価値観の多様性への理解	新型コロナウイルスのため、海外研修等の制約が厳しい中、国際的視野に立ち、自他を敬愛する精神や寛容の精神の育成に努力している
	(3) 特別活動・部活動 特別活動・部活動の充実	特別活動の実践内容と部活動指導の充実・活性化	特別活動の参加者数を10%増加し、部活動実績を2～3部向上させる	特別活動は多種多彩に開催実施しており、部活動においても複数の部において全国大会出場の実績が残せた
3 生徒指導・支援	(1) 生徒支援（学習指導・進路指導） ア 学習指導・進路指導の充実	生徒の実態に即した学習指導と進路指導の促進	生徒の実態を表面に現れた事象だけでなくその背景まで考慮しているか	日々の授業に加え、個別指導や他の教育施設などを利用することにより、生徒の希望進路実現に取り組んでいる。

	(2) 生徒指導・校内巡回の実施 生徒指導体制の確立	指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察の実施	共通認識に基づいた組織的対応と生徒への積極的な声掛けの実践で問題行動数を10%減少させる。	様々な経緯を経て入学した生徒に対し、一人ひとり親身に寄り添い、卒業に至るまで丁寧な指導を行っている。
4 教職員研修・資質向上	(1) 自己研修・資質向上 研修体制の充実	自らの資質向上に努める	自らの資質向上に務めているか	校内の新任研修、中堅研修に加え、私学人権による研修を定期的、計画的に実施している。一方、各教科ごとの外部研修については校務多忙なため、参加できない教員も多いのが課題である。
	(2) OJT OJTの効果的な活用	教職員間での業務遂行の際の良好な連携・協力体制の構築	業務遂行について今教職員相互に関心を持ち、経験者による適宜・適切な助言ができていますか	管理職、及び経験豊富な者からの適宜・適切な指導・助言の実践が行われており、教職員全体の資質向上に貢献している

4 【自己評価アンケートを踏まえた 令和4年度の改善点】(Action)

(1) IT 活用能力の育成 コロナウイルスの感染拡大により IT 機器を活用した教育が一層注目されている。これまで取り組んできた放送視聴の利活用は今後も継続しつつ、令和3年度に導入された電子黒板やプロジェクターなどを活用し、コロナウイルス収束後にも活かせる質の高い教育活動の研究に取り組んでいかななくてはならない。 そのためには IT 機器に対する教員のスキル向上とともに、本校の教育システムおよび生徒の現状に適したアプリケーションの探究に努めていく必要がある。まずは有識者による特別委員会を設置し、IT 機器活用に向けた研究を行っていく。 (2) 国際的視野に立った思考力・判断力の醸成 コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度、3年度は海外との往来が極めて限定的な社会情勢であったが、令和4年度に入り、ようやく緩和の流れとなってきた。本校においても、これを機に国際教育に再度注力し、カナダ・バンクーバーやオーストラリア・ゴールドコーストへの語学研修、E クラスでのセブ島研修の実施を目指し、生徒のみならず、教職員においても国際的知見を深める。
--

Ⅱ 令和3年度 長尾谷高等学校評価アンケート 評価結果報告書

昨年同様に令和3年度の東洋学園 長尾谷高等学校の教育活動について内部の構成員として評価をした。

学校法人東洋学園の中期、長期経営目標や長尾谷高等学校の教育目標等に基づいて質問項目を作成し、答えてもらう形をとり、質問数も全部で20とした。

対象は常勤教員全員、事務職員は専任かつ事務主任として60名に回答いただいた。

回答の方法は対象教職員が長尾谷高等学校の全体を俯瞰してそれぞれに

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない の4択で答えてもらう。

1 学校運営について

教育課程

① 「学習指導要領・教育課程と授業内容は一致していますか」

回答は A：42 B：18 C：0 D：0 で、学習指導要領に基づいて作成された長尾谷高等学校の教育課程にそれぞれの先生方が基づいた教育計画を立てて実際の授業に取り組んでいることがわかる。

教育計画

② 「年間を通じた教育計画を精選し、充実させていますか」

回答は A：41 B：19 C：0 D：0 であった。多くの教員がよりよい教育計画を立案、精選し授業を充実させていることがわかる。

教員間の連携

③ 「教員間、教科間の相互理解に基づく教育活動が行えていますか」

回答は A：41 B：19 C：0 D：0 である。

各分校、分室に分かれた各教科の教員が連携を取るためには、密なコミュニケーションや連絡が欠かせず、相互理解のもとに共通意識をもって長尾谷高等学校として統一された教育理念のもとに教育活動を展開しなければならないが、回答では多くの教職員の下でそれが実践されていることが分かる。

教員と事務職員との連携について

④ 「各分校分室内で教員と事務職員との相互理解が構築されていますか」

回答は A：43 B：16 C：1 D：0 と回答があり、各分校、分室とも校務運営がスムーズになされていることがわかる。質③同様、長尾谷高校5分校・分室で同一基準で動かなければならないことが理解されている。

情報公開について

学校 HP の充実について、

- ⑤ 「学校 HP など公開する情報は日常的に点検、更新されていますか」

回答は A : 35 B : 23 C : 2 D : 0 と回答を得た。

HP については各分校、分室の担当者が各分校、分室の意見を集約し全体の HP 担当者によって公開されている。すべてにおいて各分校、分室の様子まで理解しにくい部分がこの回答に反映されている。

学校説明会

- ⑥ 「説明内容は精選し、必要な情報を常に検証していますか」

回答は A : 44 B : 15 C : 1 D : 0 となり、各分校、分室が積極的に取り組んでいるために多くの職員が理解を示している。

危機管理

- ⑦ 「役割の明確化、諸機関との連携、訓練内容の精選と充実はなされていますか」

回答は A : 31 B : 26 C : 3 D : 0 となっている。

避難訓練等を通して危機管理の大切さが教職員間で理解されており、いざ災害が発生した際にもスムーズに対応できるよう訓練を継続していく必要がある。

2 教育内容・教育の課題について（一部、生徒指導についても含む）

情報教育の充実について

- ⑧ 「IT 活用能力の育成と情報発信モラルの教育に取り組み、これらを授業を含め様々な機会をとらえて指導していますか」

回答は A : 14 B : 39 C : 7 D : 0 となっている。

IT を活用した授業の展開は他の高等学校でも話題となって、実際取り組んでいる学校も多い。特に昨年度は新型コロナウイルスの蔓延により 4 月 5 月と休業を余儀なくされた。しかし今年度は昨年度ほどの学校教育に混乱は見られなかったが、社会全体では感染者の急増などで混乱を招いた。ともあれ学習の停滞は避けなければならず、多くの高等学校でも IT を活用しリモート授業を実施した校も多かった。本校では放送視聴の活用と課題を全生徒に提供し、学習が滞ることがないように助力した。個々の生徒に対する IT 機材の活用については、まだ理解を含め認識されていないことが読み取れる。今後の活用が待たれる。

令和 3 年度、テレビ会議システム（電子黒板）やプロジェクターなどの機器も複数導入され、授業の補助機器として活用できる。教員の活用が待たれる。

人間性を培う教育の充実

- ⑨ 「生徒指導において人間性を培う教育の充実が図られていますか」

回答が、A : 37 B : 23 C : 0 D : 0 であった。

対面での指導を重視し、教科指導のみならず、人間性を培う教育に対しても教職員が熱心に取り組んでいることが表れている。

- ⑩ 「生徒が興味関心を持てるような面接指導（授業）の充実が図られていますか」

回答は A : 27 B : 32 C : 1 D : 0 である。

スクーリングについて多様な生徒を前に教員が工夫を凝らしながら展開している様子が見て取れる。

国際教育について

- ⑪ 「国際的視野に立った思考力・判断力の醸成の機会を設けていますか」

回答は A : 16 B : 40 C : 4 D : 0 となっている。

残念ながら A : よくあてはまる、との意見が少なかった。カナダ・バンクーバーやオーストラリア・ゴールドコーストへ語学研修で出かけられるチャンスは設けられており、毎年生徒も出かけているが、今年度も先にも出たように世界的コロナ禍の影響で海外への渡航そのものが制限されている状況であった。昨年度発足した E クラスの語学研修も中止となり、代替で授業をせざるを得ない状況であった。日常的に校内で国際感覚を学べる機会が欲しい。

3 生徒指導・支援について

特別活動・部活動

- ⑫ 「特別活動の実施内容は充実していますか」

回答は A : 49 B : 9 C : 2 D : 0 である。

本校の特別活動は多彩なプログラムが提供されている。入学を希望する生徒も「特別活動が楽しそう」とパンフレットを読んで、応募してくれている。さらに充実を図りたい。

- ⑬ 「部活動の活性化を図るため、指導体制は整備されていますか」

回答は A : 26 B : 28 C : 6 D : 0 である。

通信制高等学校としては、部活動は充実していると評価できる。体育系では、毎年定時制通信制の全国大会に出場する運動部が複数あり、文化系でも様々な文化部が和気藹々と活動している。また、将来プロを目指す優秀な選手もあり、多様な部活動を展開している。今後も生徒の居場所づくりと仲間づくりを意識しつつ、部活動の充実を図りたい。

文化部の発表の場である「長尾谷祭（文化祭）」が令和 2 年度、令和 3 年度と縮小されたが、困難の中で生徒はコロナ禍の蔓延に留意しながら、練習を続け、発表した。

学習指導、進路指導の充実

- ⑭ 「生徒の実態に即した学習指導・進路指導が行われていますか」

回答は A : 42 B : 18 C : 0 D : 0. 進路指導については多くの生徒が大学をめざす本校にとって、日々の授業のみでは進学の夢はかなえられないが、教員の個別の指導により、また他の教育施設などを活用することにより、その夢実現に取り組んでいる。

- ⑮ 「生徒指導方針の共通理解とそれに即した丁寧な指導が行われていますか」

回答は A : 42 B : 18 C : 0 D : 0 様々な経緯を経て入学した本校の生徒に生徒指導は必須のものである。生徒一人ひとりに寄り添い、卒業という目的に教職員のほとんどが熱く丁寧に取り組んでいることがうかがえる。

- ⑯ 「特別な支援を必要とする生徒について、各校で把握し全体で取り組んでいますか」。

回答は A : 44 B : 15 C : 1 D : 0 各分校分室に支援コーディネーターを設置し、各校で支援を要する生徒を掌握している。すべてにおいて支援が可能かという、本校に入学を許可される生徒の実態を自律可能な生徒としているため、大きく支援しなければならない生徒はいないが、支援のための研究は続けられている。今後の課題でもある。

4 教職員の研修・資質向上について

- ⑰ 「教職員研修の実施及び研修の成果は共有されていますか」

回答は A : 22 B : 34 C : 4 D : 0 と回答されている。

研修について新任研修、中堅研修という校内研修、また私学人研による新任研修など定期的、計画的に研修が実施されている。各教科科目の研修についても案内等配布されるが、多くの教員が校務多忙のために十分に参加できる状態であるとは言えない。一方で、校内における授業研究会は年 2 回各 4 名程度が定期的実施しており、成果を上げている。

- ⑱ 学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育についての指導が行えていますか」

回答は A : 22 B : 34 C : 4 D : 0 という回答である。

人権教育主担を中心に、あらゆる場面を通じて全体で取り組んでいる。

業務遂行の際の連携協力について

- ⑲ 「業務遂行について管理職、経験豊富な先輩からの適宜・適切な助言などはもらえていますか」

回答は、A : 43 B : 16 C : 1 D : 0 となっている。

例年新しい教職員が入職する本校としては、一日も早く長尾谷高等学校の制度、システムに慣れるために先輩の指導が欠かせない。各教員ともその恩恵を受けて今日を迎えていると理解している。

- ⑳ 「指導力向上のため、自己研鑽に努めていますか」

回答は A : 32 B : 28 で、C 及び D の回答はない。

教員にとっての自己研鑽は必須の努力要素である。すべての教員が日々業務遂行のために努力しているのがわかる。

令和３年度 長尾谷高等学校学校評価アンケート 総括

学校法人東洋学園および、長尾谷高等学校の中長期経営方針、長尾谷高等学校の教育目標等を参考に、学校経営、教育内容、生徒指導・支援、教職員研修・資質向上の４項目を追加し評価項目を２０項目とした。

質問内容については別紙学校評価アンケート用紙のとおりである。

調査対象は、例年同様教員は全員であるが、項目内容が教育に関する部分が多くなったため事務職員については専任、事務主任に限った。（合計６０名）

評価項目は２０項目。評価基準はＡＢＣＤ４段階になっているが、より傾向をつかむため肯定的評価（ＡＢ）と否定的評価（ＣＤ）に分けて考察をする。全体としては、全回答数１２００回答（２０評価項目×回答者６０名）の内、肯定的評価（ＡＢ）は１１６３回答で、肯定率は９７．０％になっている。

個別に分析すると、回答を寄せた教職員全員が肯定的にとらえている項目、つまり肯定率が１００％の項目としては、①教育課程、②教育計画、③教員間の連携、⑨人間性を培う教育の充実、⑭⑮学習指導・進路指導の充実、⑳資質向上についての７項目である。このうち①②③は本校が学習指導要領に則り教育計画を立てて教育活動に取り組んでいることを示している。⑨は本校の「人間性を培う教育の充実」という生徒指導方針、具体的な指導がおおむね理解されていることがうかがえる。⑭⑮は学習指導・進路指導が本校生徒に適切に実施され、本校教員が生徒一人ひとりに寄り添い、卒業という目的に向かって丁寧に取り組んでいることがわかる。⑳は本校は現職教育で初任者研修、中堅研修を実施している。その際教員は常に資質向上、自己研鑽に努めるべきであると説明している。それがそのまま評価としてあらわれたものである。

教職員のほぼ全員にあたる９８％が肯定的に評価されているのが、④、⑤、⑥、⑫、⑬、⑱の６項目ある。⑥は総合企画室を中心に外部の説明会に参加、各校は土曜日ごとの説明会に取り組んでいる。通信制高校にとって生徒を集めるために非常に重要な業務である。各教員も広報活動の重要性を認識して取り組んでいると考えることができる。⑫の特別活動について、通信制高等学校での特別活動は全日制高等学校のそれとは異なり、自由参加が原則である。そして３年の在学期間中に３０時間以上参加することが卒業要件として求められる。そのため、いかに生徒にとって魅力ある、率先して参加したくなるような特別活動を提供するかを企画し生徒の参加を指導しなければならない。生徒が学校に足を向けるようにするために、現状に満足せず今以上に精選された魅力ある特別活動の提供を進めることも重要である。

⑬の部活動については本稿は通信制高校としては部活動が盛んである。運動系では毎年いくつかの部が大阪を代表して定時制通信制の全国大会に出場している。文化部か和気あいあいと活動をしている。

⑬の業務を遂行する上での連携協力は長尾谷高等学校5校の統一した運営を行う上で大切なことである。校長の指揮下、各分校長・分室長の指導に従いながら、又諸先輩の適宜・適切な助言などいただいて教員としての成長を目指す。多くの教員が肯定していることは長尾谷高等学校の体質の健全さを示していると思う。

⑧の情報教育の充実については昨年度否定的評価をしている教員が多かった。長尾谷高等学校のシステムは「通信制といえどもできるだけ登校しよう」をキャッチフレーズとして生徒の顔を見ながら教育に取り組んでいる。このことだけを見ると本校はアナログ的ではあるが、どの情報を取り入れ、どの情報を拒否するかという情報リテラシーの部分については研修の機会を設けている。また、本校においても情報機器を活用した教育の推進も計画しており、引き続き教職員の情報機器活用力の研修等も進めていきたい。

最後に、このアンケート結果を踏まえて、本校の教育環境の改善に努め、生徒・保護者に良質な教育内容を提供していきたい。長尾谷高等学校の教職員の教育活動は文部科学省、大阪府教育庁の指導に基づき経営方針・教育目標等定めている。今後とも教育の基礎基本に基づいて教育活動を進めていく所存である。

令和3年度 長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙

所属校()名前()

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価
学校運営	教育課程	学習指導要領への対応	1	学習指導要領・教育課程と授業内容は一致していますか	
		教育計画について	2	年間を通じた教育計画を精選し、充実させていますか	
	連携	教員間連携	3	教員間、教科間の相互理解に基づく教育活動が行えていますか	
		教員と事務職員との連携	4	各分校分室内で教員と事務職員との相互理解が構築されていますか	
	情報公開	学校HPの充実	5	学校HPなど公開する情報は日常的に点検、更新されていますか	
		学校説明会の充実	6	説明内容は精選し、必要な情報を常に検証していますか	
	危機管理	危機管理マニュアル	7	役割の明確化、諸機関との連携、訓練内容の精選と充実はなされていますか	
教育内容	情報教育	情報教育の充実	8	IT活用能力の育成と情報発信モラルの教育に取り組み、これらを授業を含め様々な機会をとらえて指導していますか	
	教育体制	人間性を培う教育の充実	9	生徒指導において人間性を培う教育の充実が図られていますか	
			10	生徒が興味関心を持てるような面接指導(授業)の充実が図られていますか	
		国際教育の充実	11	国際的視野に立った思考力・判断力の醸成の機会を設けていますか	
	特別活動・部活動	充実と活性化	12	特別活動の実施内容は充実していますか。	
			13	部活動の活性化を図るため、指導体制は整備されていますか	
生徒指導・支援	生徒指導体制の確立	学習指導、進路指導の充実	14	生徒の実態に即した学習指導・進路指導が行われていますか	
		指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察	15	生徒指導方針の共通理解とそれに即した丁寧な指導が行われていますか	
	生徒支援	支援を必要とする生徒	16	特別な支援を必要とする生徒について、各校で把握し全体で取り組んでいますか	
教職員研修・資質向上	研修体制の充実	研修体制の充実	17	教職員研修の実施及び研修の成果は共有されていますか	
		人権教育の充実	18	学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育についての指導が行われていますか	
	資質向上	業務遂行の際の連携協力	19	業務遂行について管理職、経験豊富な先輩からの適宜・適切な助言などはもらえていますか	
			20	指導力向上のため、自己研鑽に努めていますか	

令和3年度学校評価集計表（全員集計）

長尾谷高等学校（ ）校 集計者（ ）

分類	評価項目	番号	A の数	B の数	C の数	D の数	備考
学校運営	学習指導要領の対応	1	0	0	0	0	
	教育計画について	2	0	0	0	0	
	教員間連携状況	3	0	0	0	0	
	教員と事務職員の連携	4	0	0	0	0	
	学校HPの充実	5	0	0	0	0	
	学校説明会の充実	6	0	0	0	0	
	危機管理マニュアル	7	0	0	0	0	
教育内容	情報教育の充実	8	0	0	0	0	
	人間性を培う教育の充実	9	0	0	0	0	
		10	0	0	0	0	
	国際教育の充実	11	0	0	0	0	
	充実と活性化	12	0	0	0	0	
		13	0	0	0	0	
生徒指導・支援	学習指導、進路指導の充実	14	0	0	0	0	
	指導方針の一貫性共通理解と丁寧な生徒観察	15	0	0	0	0	
	支援を必要とする生徒	16	0	0	0	0	
教職員研修・質向上	研修体制の充実	17	0	0	0	0	
	人権教育の充実	18	0	0	0	0	
	業務遂行の際の連携協力	19	0	0	0	0	
		20	0	0	0	0	

Ⅲ 学校関係者評価 概要

(名称) 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会

(目的) 1 長尾谷高等学校の教育活動の一層の向上に向け、学校と連携しながら取り組む。

2 学校関係者評価を実施し、学校の教育活動を支援する。

3 校長の求めに応じ、学校の運営に関し意見を述べる。

(活動) 1 委員の任期は4月から翌年3月までの1年とする。

2 委員の再任は妨げない。

3 会議は10月、及び、3月に開催する。会議を開催できない場合は意見・感想等を聴取する。

(事務局) 事務局を長尾谷高等学校枚方本校に置く。

(構成) 令和4年度委員 (敬称略)

杵本 多佳志 (大阪府立いちりつ高等学校長)

森口 愛太郎 (大阪府立桜宮高等学校長)

松本 隆正 (東洋学園高等専修学校長)

高島 忠幸 (近畿情報高等専修学校 副校長)

Ⅳ 「令和4年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

1 「学校運営」評価

- ・教育計画に基づき、全教員がコミュニケーションをよくとり、協働して教育実践に取り組むことにより、充実した学校運営がなされていることがよくわかる。
- ・引き続き、教員間の連携をしっかりとっていただき、こども達のために頑張っていただきたいです。
- ・全体的に肯定的な評価が高く、教職員の意識が高いことが伺える。5つの分校・分室に分かれている中、意思統一がなされ、協調性を持って教育活等がなされている。
- ・進学先を選ぶにあたり、学校HPをみたうえで、学校見学に来るケースが大半であると思う。学校HPを日常的に点検更新されておられることは評価できる。

2 「教育内容・教育の課題」評価

- ・多様な生徒に対応するため、各教員が工夫を凝らして実践されている。ICTについては更なる活用、またそのための研修等が今後必要と思われる。教育内容の充実のため、積極的に取り組める環境を整備されたい。また、国際教育においてもオンラインでの交流なども今後検討されたい。
- ・授業におけるテレビ会議システム（電子黒板）やプロジェクターなどの機器の有効活用に期待しています。
- ・IT活用については、教員のスキル向上が必要であると思います。スクーリングにおいて興味をもちわかりやすい授業にする研究が必要。リモート授業に関心が行くが対面でのスクーリングの重要性を感じる。
- ・高校生の意識調査によると、オンライン授業と対面授業との併用が良いと答えた割合が高いようである。IT機材の導入、活用については慎重に考え諸般の状況に応じたものでよいと思う。

3 「生徒指導・支援」評価

- ・個に応じた学習指導並びに生徒指導で、生徒一人ひとりの進路実現と全員の卒業を目指した取り組みに全教職員で尽力されている。
- ・今後も、入学を希望するこども達が、満足できる特別活動の充実に努めていただきたいです。
- ・教職員が積極的に取り組み、自信を持った評価につながっている。今後も高水準を維持し、生徒の安定した環境づくりに努めていただきたい。
- ・特別活動で生徒を楽しませ、部活動が充実していることは素晴らしい。

4 「教員研修・資質向上」評価

- ・人権教育をはじめ各種の研修に取り組まれている。今後もICT教育や特別支援教育、並びに危機管理の充実に向けた研修が期待される。
- ・大変お忙しいとは思いますが、引き続き、お一人おひとりが自己研鑽に努めていただければと思います。
- ・資質向上に向け、教職員の努力はうかがえる。これが自信を持った評価につながっていくことに期待する。校務多忙の中で実施・参加が難しいと思うが研修制度の活用が望まれる。
- ・学校にとって、人材育成は重要である。校内研修を行い、成果を上げているということは大変評価できる。

5 「総括」の評価

- ・全体を通して、昨年に引き続きコロナ禍での教育実践、学校運営となり、本来の教育活動が保障されない中、生徒の学習活動に全教職員が協力して取り組み、生徒一人ひとりに対する支援がよくなされている。
- ・コロナ禍のなか、さまざまな工夫をされていることがわかりました。引き続き、こども達のために何ができるのかを考えていただき、教育を進めていただければと思います。
- ・教職員の教育活動への自身が伺える。分校・分室に分かれる中、統一感を持って取り組んでおり全体的に充実感がある。今後、更なる活躍に期待いたします。
- ・コロナ禍で教育現場も大きな影響を受けましたが、学習が滞ることなく、日々取り組まれたことが伝わる内容のアンケート結果であったと思いました。

6 その他、今後の学校運営についてのご意見

- ・現在、コロナ禍で中断されている国際理解教育の早期の再開と、それに向けたオンライン交流など生徒の意識向上に注力いただきたい。また、教育実践が活性化するよう更なるICTの活用にも期待される場所である。
- ・今後も、さまざまな情報提供をお願いいたします。
- ・学習指導、進路指導への取り組みを継続され、生徒の満足度を更に高めていって下さい。